

2020年3月期 決算説明

2020年6月

 日本カーバイド工業株式会社

1. 2020年3月期決算の概要

2. 2021年3月期業績予想

3. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

1. 2020年3月期決算の概要

サマリー【連結損益計算書】

米中貿易摩擦の長期化の影響を受け、中国では景気減速が継続し、欧州諸国やアジア新興国では成長ペースが鈍化

売上高は前期比▲4.0%の減収、業績予想比は▲0.6%

営業利益は前期比▲3.5%の減益、業績予想比は+2.3%

営業利益率は前期比0.1ポイント上昇

単位：百万円（1株あたり純利益除く）

	2020年3月期		2019年3月期		前期比		2020年 3月期	業績予想比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	46,699	—	48,651	—	▲ 1,952	▲4.0%	47,000	▲ 301	▲0.6%
売上原価	32,838	70.3%	34,571	71.1%	▲ 1,733	▲5.0%	—	-	-
販売費及び一般管理費	11,303	24.2%	11,430	23.5%	▲ 127	▲1.1%	—	-	-
営業利益	2,557	5.5%	2,649	5.4%	▲ 92	▲3.5%	2,500	57	+2.3%
経常利益	2,817	6.0%	3,119	6.4%	▲ 302	▲9.7%	2,750	67	+2.4%
当期純利益	1,741	3.7%	1,800	3.7%	▲ 59	▲3.3%	1,750	▲ 9	▲0.5%
1株当たり純利益	212.57	—	219.95円	—	—	—	213.75円	-	-

※2019年5月13日に公表いたしました2020年3月期業績予想を10月29日に修正しております。本表では、この数字を「業績予想」としています。

連結貸借対照表

自己資本比率は40%、
前連結会計年度末から 1 ポイント改善

単位：百万円

	2020年3月期 連結会計期間		2019年3月期		前期比増減額
	実績	構成比	実績	構成比	
流動資産 (うち棚卸資産)	33,241 (8,152)	54.3% (13.3%)	31,588 (8,030)	52.1% (13.2%)	1,653 (122)
固定資産	28,000	45.7%	29,021	47.9%	▲ 1,020
有形固定資産	23,997	39.2%	24,598	40.6%	▲ 601
無形固定資産	913	1.5%	608	1.0%	305
投資その他の資産	3,089	5.0%	3,814	6.3%	▲ 725
資産合計	61,242	100.0%	60,609	100.0%	633
流動負債	21,370	34.9%	21,600	35.6%	▲ 229
固定負債	13,892	22.7%	14,043	23.2%	▲ 151
負債合計	35,263	57.6%	35,643	58.8%	▲ 380
(うち借入金)	(17,352)	(28.3%)	(17,271)	(28.5%)	(81)
株主資本	18,282	29.9%	16,807	27.7%	1,475
その他の包括利益累計額	6,176	10.1%	6,850	11.3%	▲ 674
非支配株主持分	1,516	2.5%	1,307	2.2%	209
純資産合計	25,962	42.4%	24,966	41.2%	996

※参考

自己資本／自己資本比率

2020年3月期 24,458百万円／40%

2019年3月期 23,658百万円／39%

連結キャッシュ・フロー計算書

フリー・キャッシュ・フローは2,233百万円（前期比2,401百万円減少）

（単位：百万円）

	2020年3月期 連結会計期間	2019年3月期 連結会計期間	前期比
現金及び現金同等物の期首残高	6,955	4,398	2,557
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,736	5,895	▲ 3,159
（うち減価償却費）	(2,008)	(2,162)	(▲ 154)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 503	▲ 1,261	758
（うち設備支出額）	(▲ 1,155)	(▲ 1,604)	(449)
フリー・キャッシュ・フロー	2,233	4,634	▲ 2,401
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 425	▲ 1,902	1,477
（うち配当金）	(▲ 327)	(▲ 245)	(▲ 82)
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 54	▲ 174	120
現金及び現金同等物の期末残高	8,710	6,955	1,755

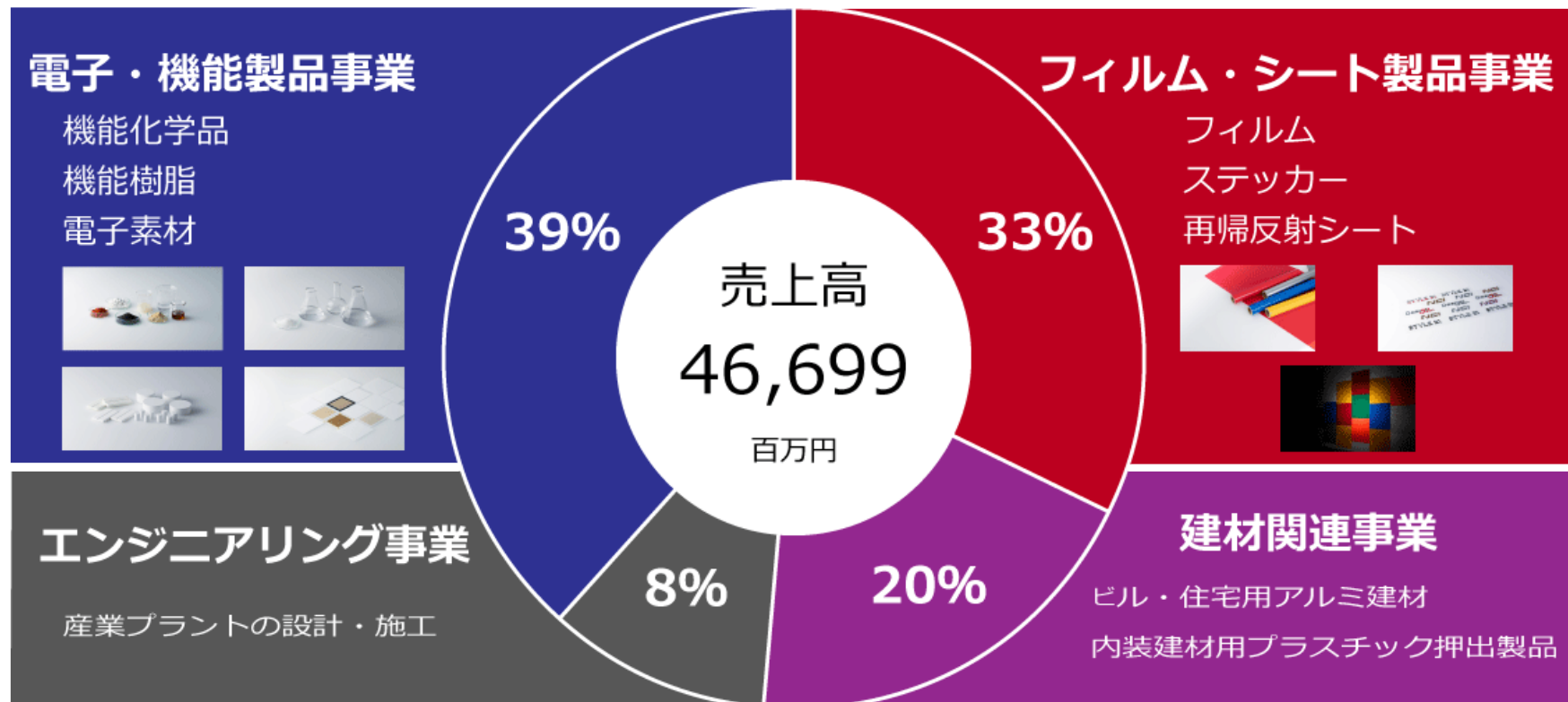
セグメント概要

電子・機能製品事業は減収増益、フィルム・シート製品事業は減収減益、
建材関連事業は減収増益、エンジニアリング事業は増収増益

(単位：百万円)

		2020年3月期		2019年3月期	前期比	
		実績	構成比	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	18,434	38.2%	19,030	▲ 596	▲3.1%
	営業利益	1,646	55.7%	1,594	52	+3.3%
フィルム・シート製品	売上高	15,614	32.4%	16,369	▲ 755	▲4.6%
	営業利益	689	23.3%	1,418	▲ 729	▲51.4%
建材関連	売上高	9,259	19.2%	9,766	▲ 507	▲5.2%
	営業利益	491	16.6%	207	284	+137.2%
エンジニアリング	売上高	4,894	10.2%	4,808	86	+1.8%
	営業利益	128	4.3%	73	55	+75.3%

セグメント別売上高シェア



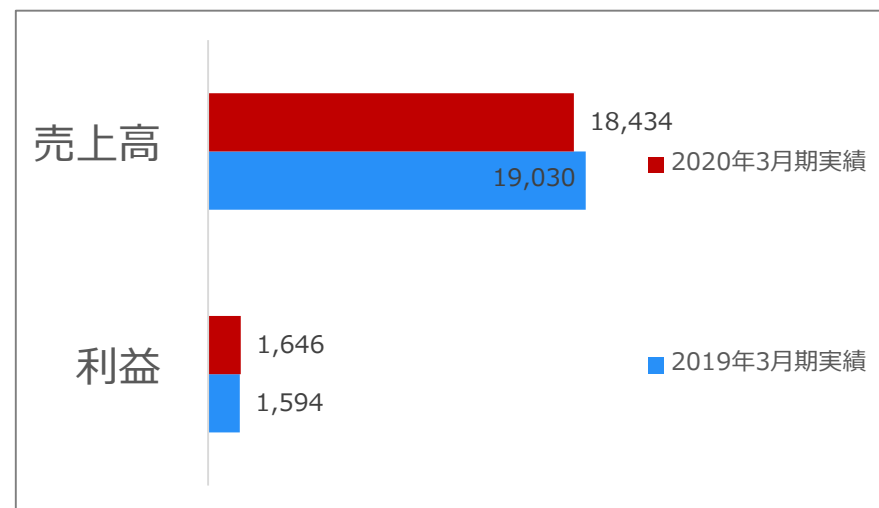
※売上高および内訳は2020年3月期実績

セグメント別状況 【電子・機能製品事業】

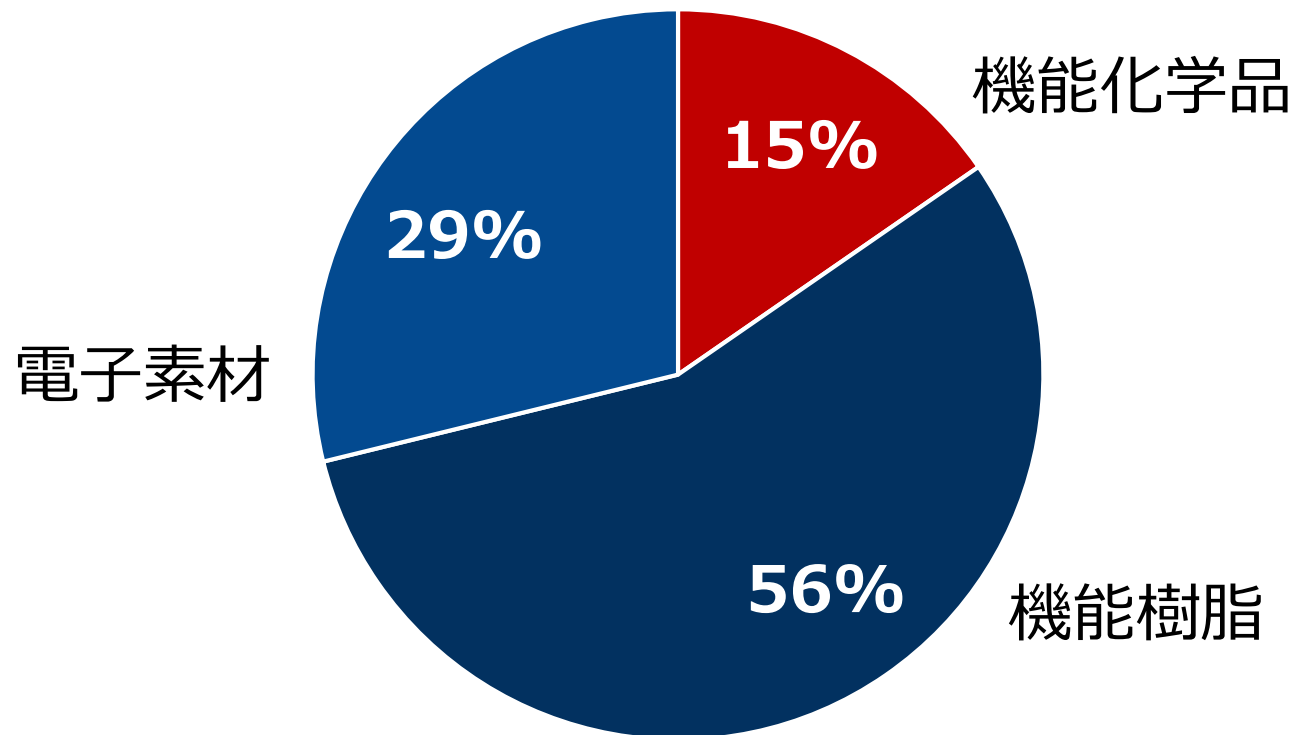
単位：百万円

		2020年3月期	2019年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	18,434	19,030	▲ 596	▲3.1%
	営業利益	1,646	1,594	52	3.3%

- ・ **機能化学品**は、農薬向けが低調であったものの、医薬関連は堅調に推移し、減収増益
- ・ **機能樹脂**は、光学関連分野向け粘・接着剤の需要が低調となり、減収減益
- ・ **電子素材**は、半導体用金型クリーニング材が市況の悪化により海外での販売が伸びず、またセラミック基板は車載向けが振るわず、ともに減収減益



2020年3月期 売上高実績
18,434百万円

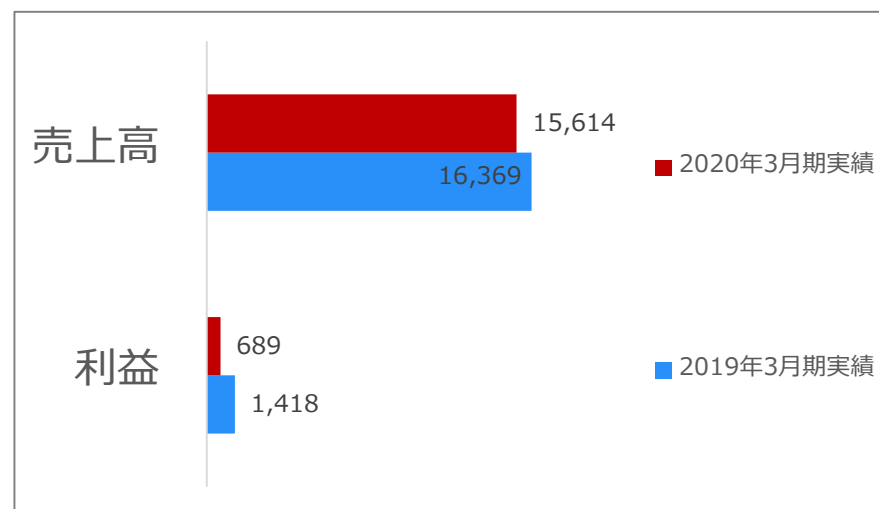


セグメント別状況 【フィルム・シート製品事業】

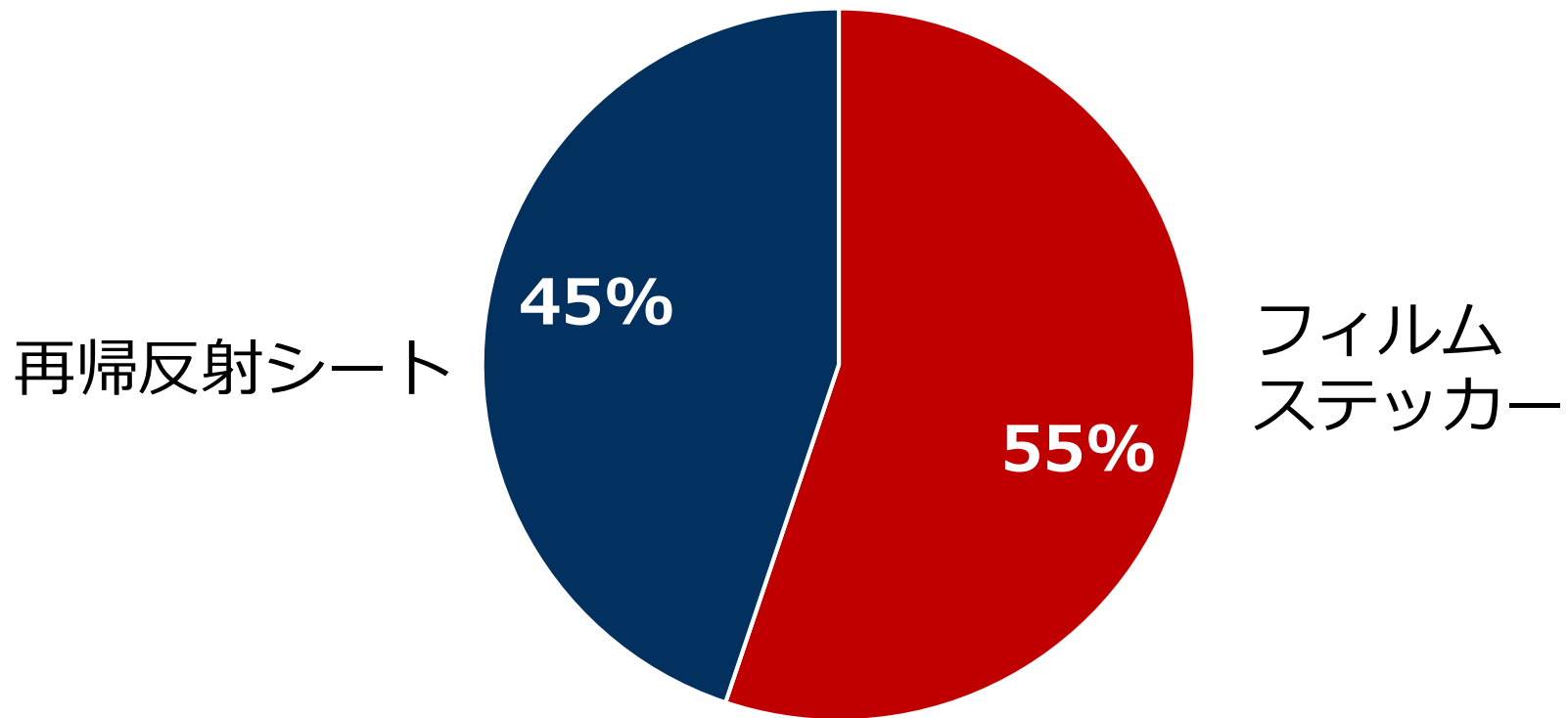
単位：百万円

		2020年3月期	2019年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
フィルム・シート製品	売上高	15,614	16,369	▲ 755	▲4.6%
	営業利益	689	1,418	▲ 729	▲51.4%

- ・ **マーキングフィルム**は、国内及び海外ともに低調に推移し、減収減益
- ・ **ステッカー**は、インドネシアやブラジルでの販売は好調に推移したが、ベトナムなどでの販売が低迷し、減収減益
- ・ **再帰反射シート**は、欧州や中国向けの販売が総じて振るわず、減収減益



2020年3月期 売上高実績
15,614百万円

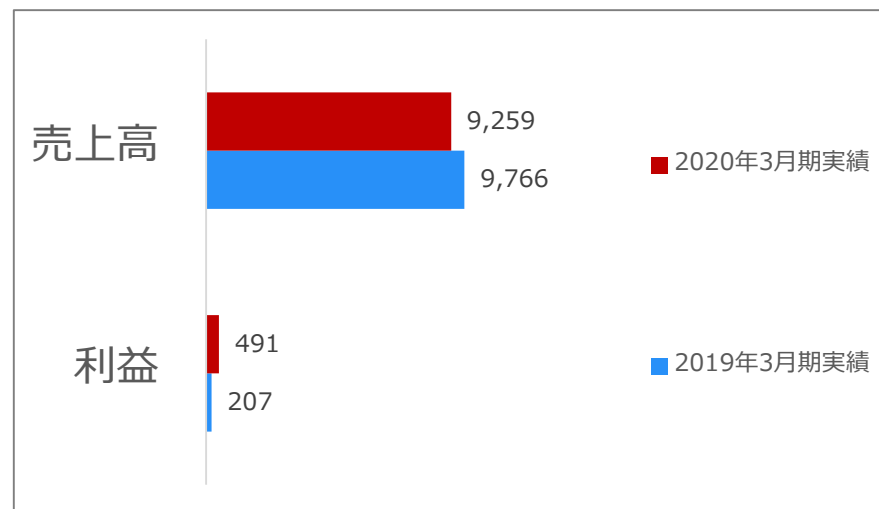


セグメント別状況 【建材関連事業】

単位：百万円

		2020年3月期	2019年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
建材関連	売上高	9,259	9,766	▲ 507	▲5.2%
	営業利益	491	207	284	+137.2%

- 住宅着工戸数の減少などにより、主力の手摺、笠木等の販売が低迷し、減収
- 一方、アルミ地金価格の低下による原価低減などもあり、増益

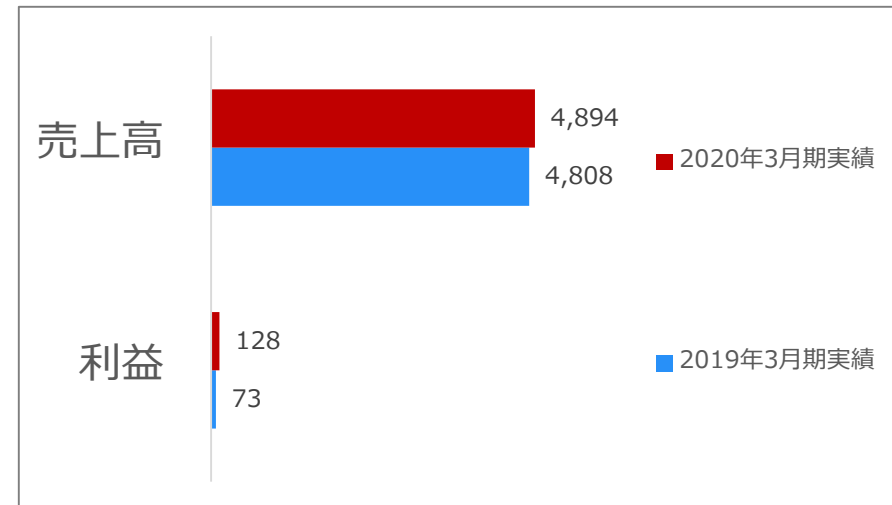


セグメント別状況 【エンジニアリング事業】

単位：百万円

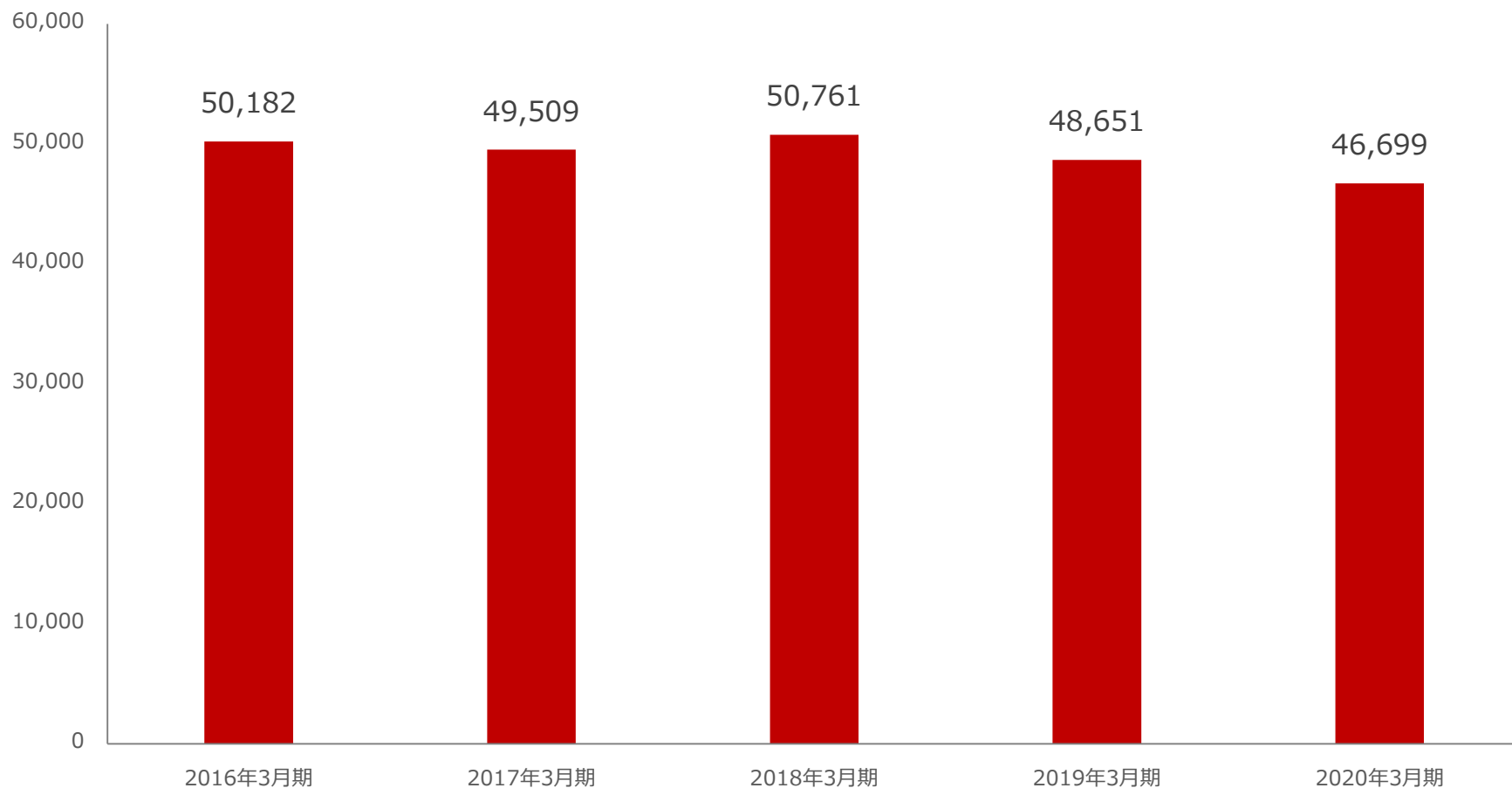
		2020年3月期	2019年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
エンジニアリング	売上高	4,894	4,808	86	1.8%
	営業利益	128	73	55	75.3%

- 国内向け工事案件の完工が増加したことなどにより、増収増益



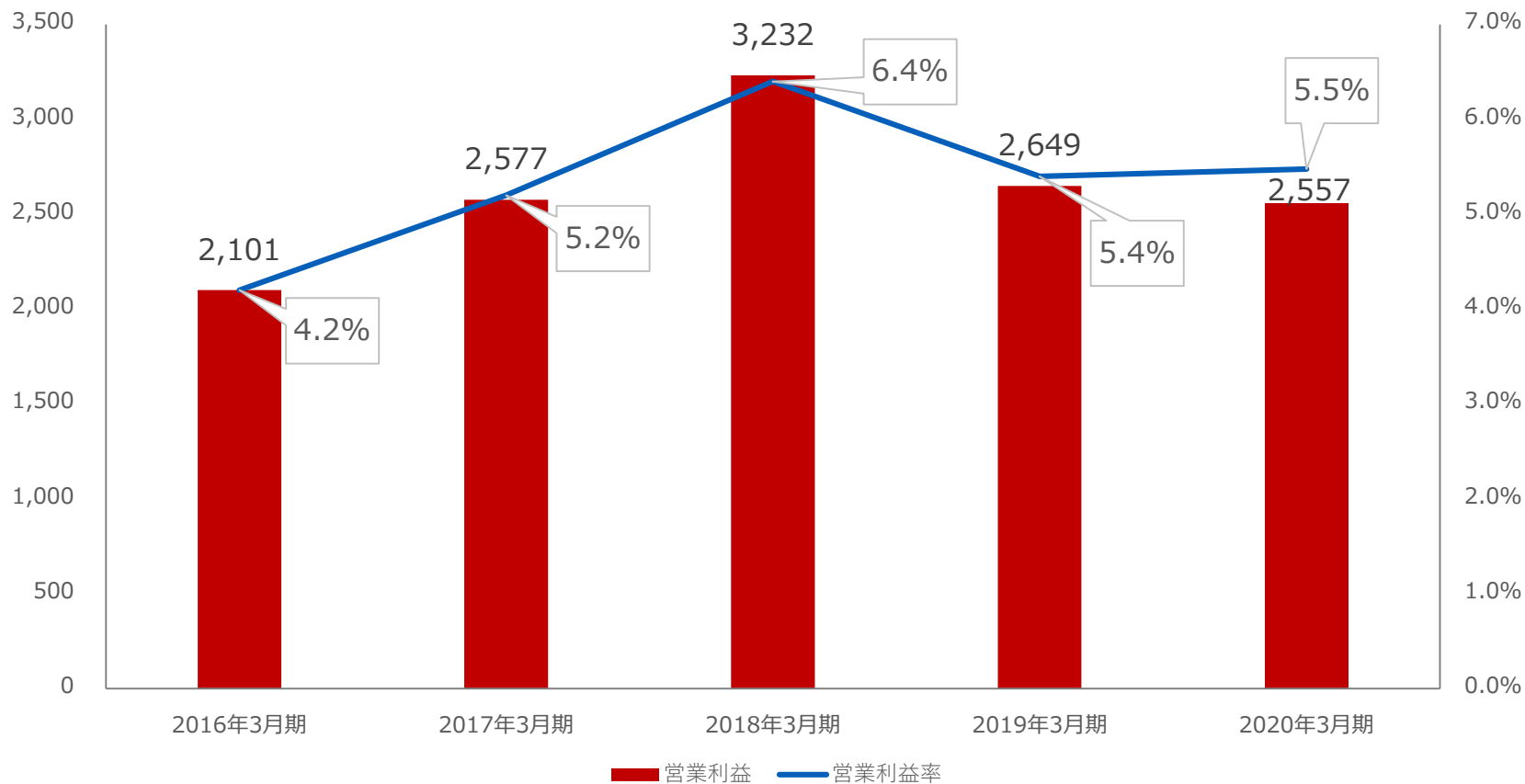
連結業績の推移 売上高

単位：百万円



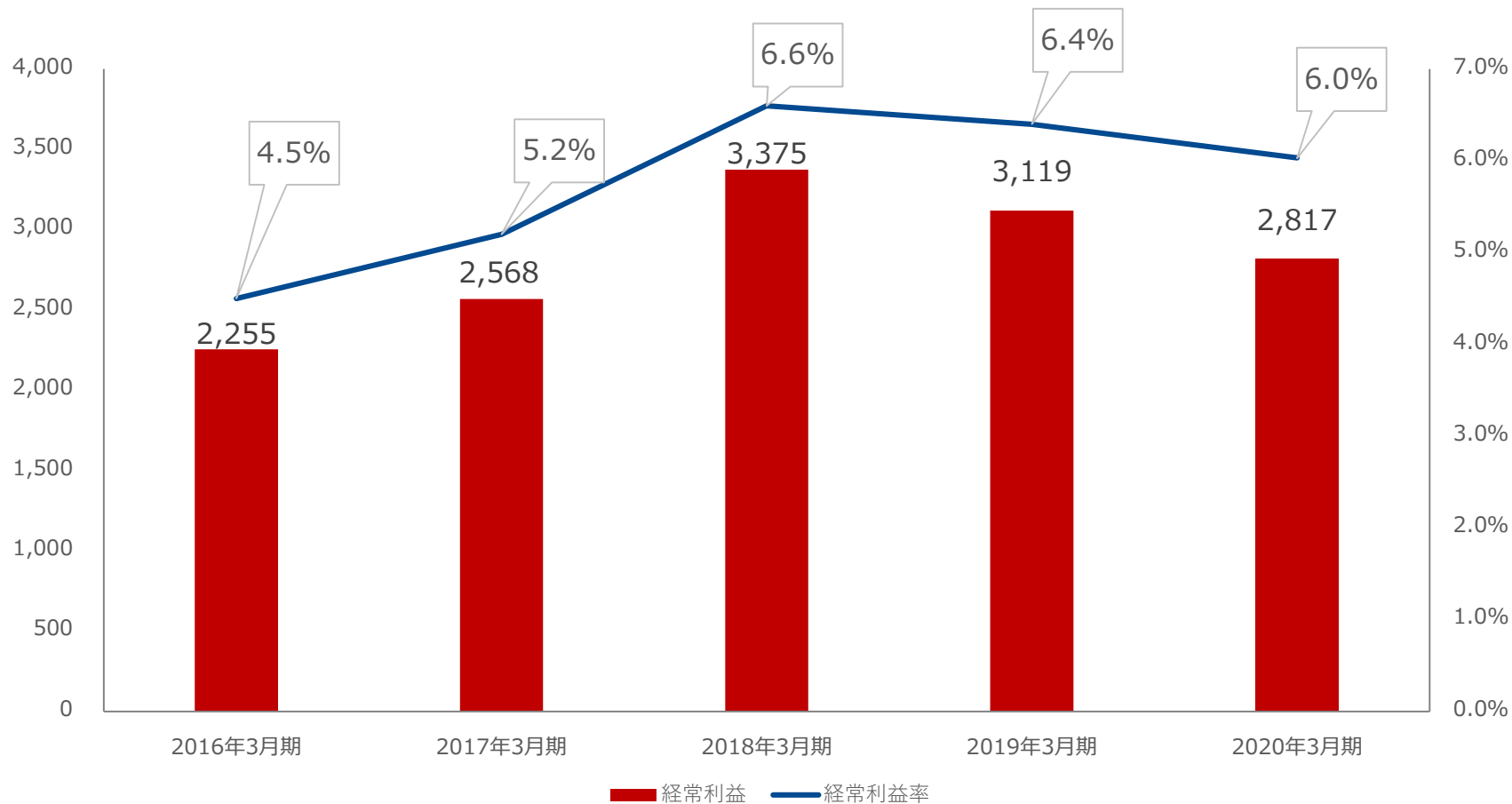
連結業績の推移 営業利益

単位：百万円



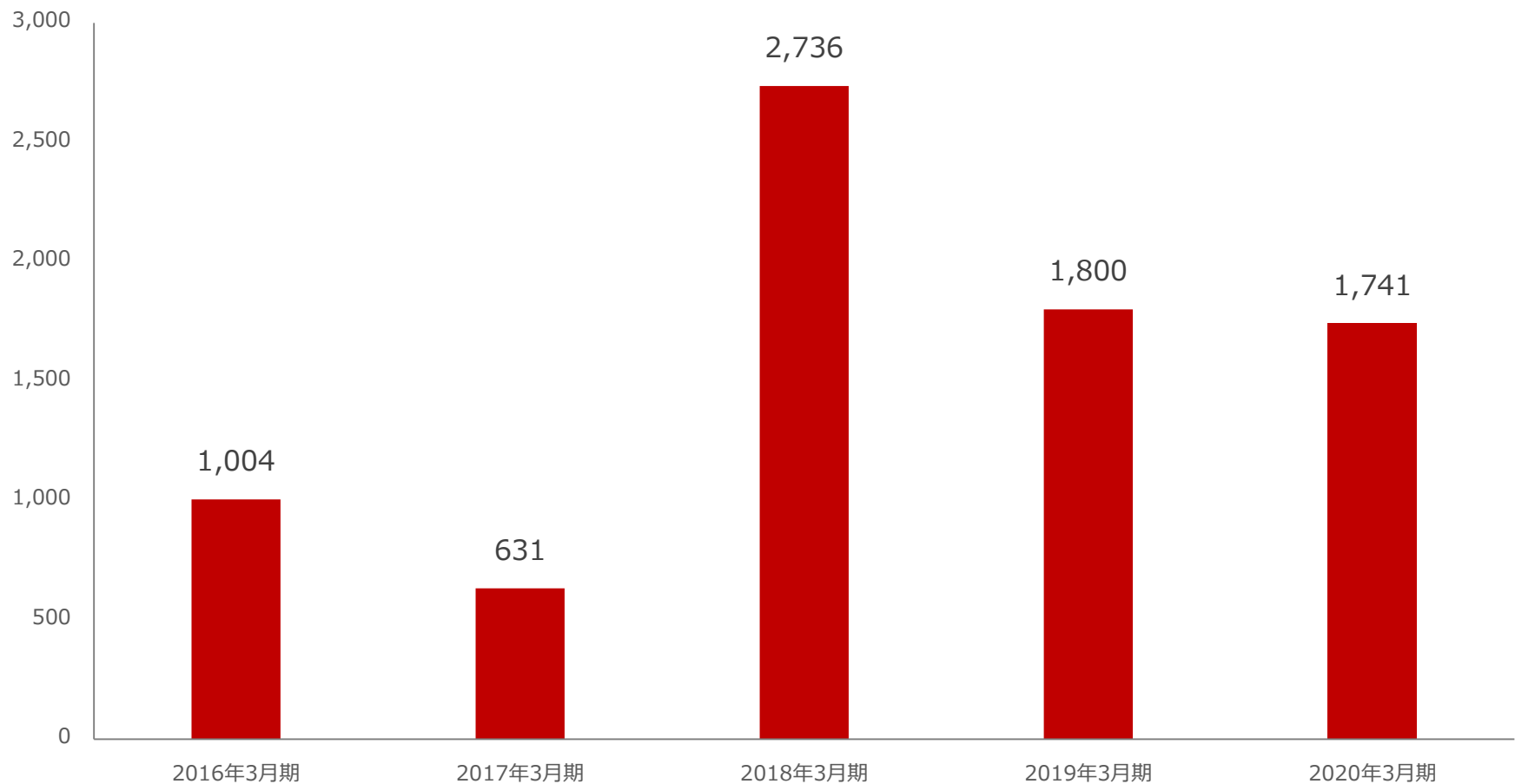
連結業績の推移 経常利益

単位：百万円



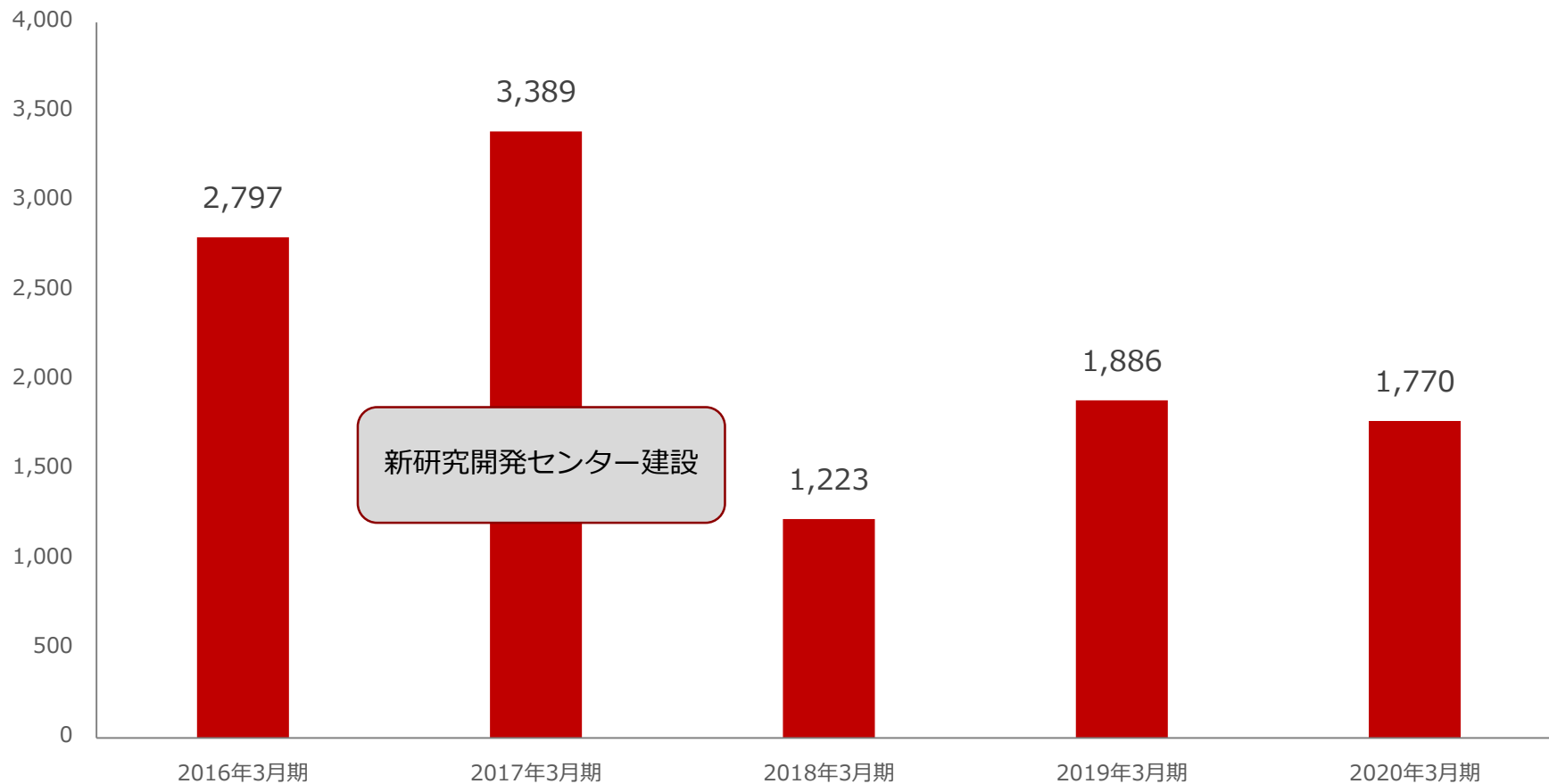
連結業績の推移 親会社株主に帰属する当期純利益

単位：百万円



設備投資の状況

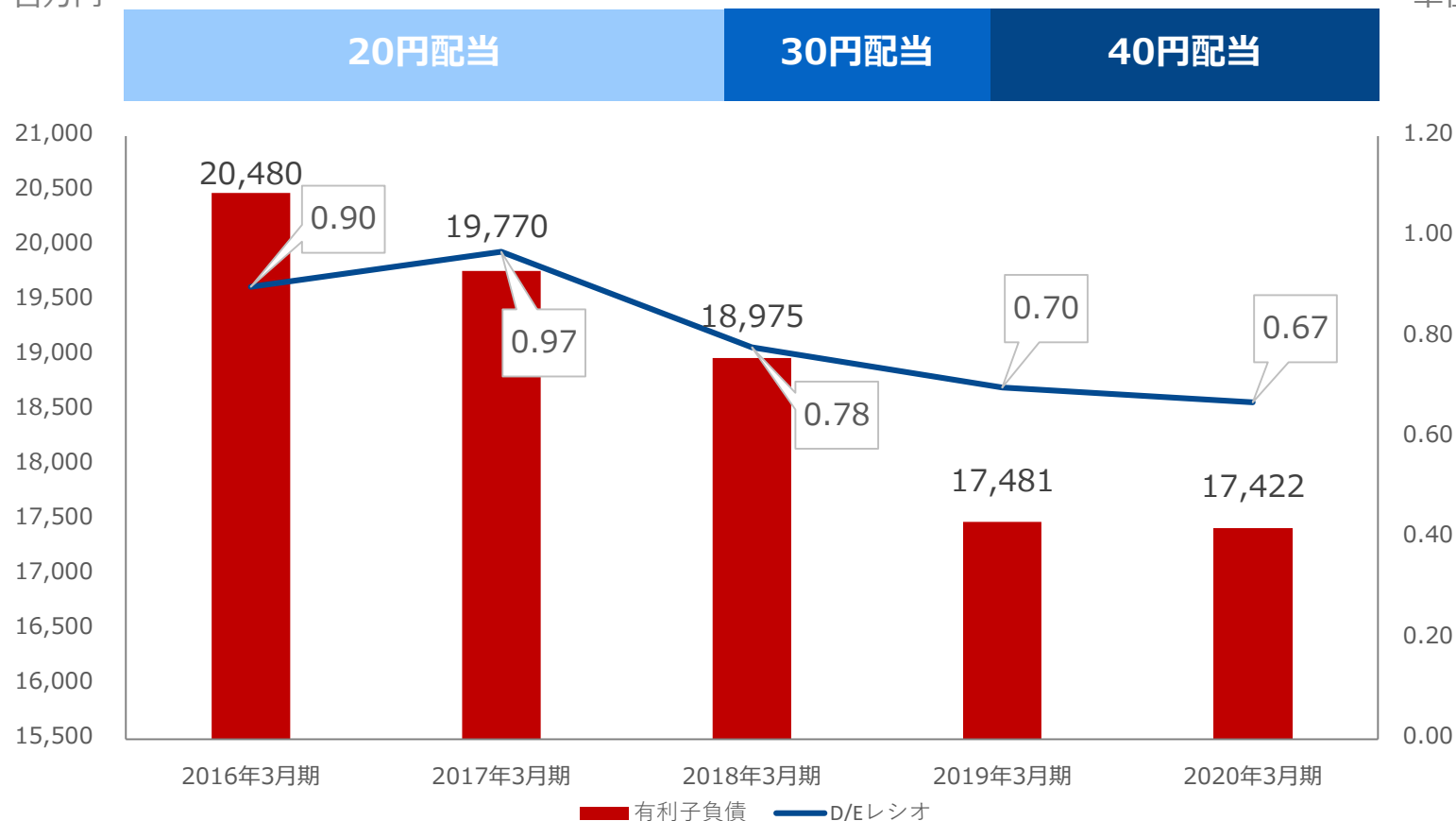
単位：百万円



有利子負債及び配当の推移

単位：百万円

単位：倍



※配当は1株あたり。2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。2017年3月期以前の1株当たり配当金額は当該株式併合を考慮して換算した金額を記載

2. 2021年3月期業績予想

2021年3月期 連結業績予想

単位：百万円（1株当たり配当金除く）

		2021年3月期	2020年3月期	前期比	
		予想	実績	差額	増減率
売上高	第2四半期	19,500	22,658	▲ 3,158	▲14%
	通期	42,500	46,699	▲ 4,199	▲9%
営業利益	第2四半期	0	1,119	▲ 1,119	—
	通期	1,200	2,557	▲ 1,357	▲53%
経常利益	第2四半期	100	1,170	▲ 1,070	▲91%
	通期	1,250	2,817	▲ 1,567	▲56%
当期純利益	第2四半期	0	742	▲ 742	—
	通期	600	1,758	▲ 1,158	▲66%
1株当たり純利益	第2四半期	0.00円	90.63円	—	—
	通期	73.22円	214.62	—	—

※尚、連結業績予想については、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、新型コロナウイルスの終息時期等により変動する可能性がございます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響について

- 電子・機能製品事業およびフィルム・シート製品事業の国内における売上高・営業利益については、第1四半期・第2四半期に大きな影響が生じるが、第3四半期には市況が回復するとの前提で計画
- 海外グループ各社（インド除く）は12月決算のため、第1四半期は影響が軽微なもの、電子・機能製品事業およびフィルム・シート製品事業の第2～3四半期の売上高・営業利益に大きな影響が生じる。市況の回復は10月以降になるとの前提で計画

	2021年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
海外関係会社 (除くインド)	1～3月 △	4～6月 ×	7～9月 ▲	10～12月 ○
国内関係会社	2～4月 △	5～7月 ×	8～10月 ▲	11～翌1月 ○
日本カーバイド工業単体	4～6月 ×	7～9月 ▲	10～12月 ○	翌1～3月 ○
連結全体	4～6月 △	7～9月 ×	10～12月 ▲	翌1～3月 ○

×：大きく影響を受ける
 △：影響を受ける
 ▲：影響を受けるが、
 大きさ不確実
 ○：影響をあまり受けない

3. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

コア事業のうち

高付加価値ビジネスを**成長戦略**とし

未来の社会に幅広く貢献する

持続的成長可能な化学系企業グループ

「コア事業」

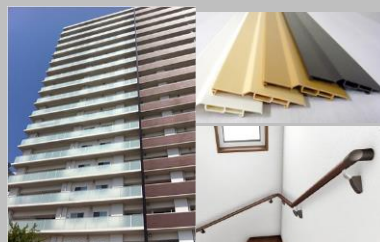
電子・機能製品事業



フィルム・シート製品事業



建材関連事業



エンジニアリング事業



コア事業

「高付加価値ビジネス」

高付加価値ビジネス = ① コア事業のうち、高機能樹脂および機能性フィルムを戦略分野とする
② 戦略分野×戦略分野

戦略分野

高機能樹脂

機能性
フィルム

戦略分野×戦略分野

高機能樹脂



機能性
フィルム

研究・製造・販売の融合
新商品開発、新市場開拓

「成長戦略」

コア事業のうち、高機能樹脂、機能性フィルムを戦略分野として、
注力領域・成長地域への取組みを強化する

戦略分野 × 注力領域・成長地域



注力領域×成長地域

		成長地域			戦略分野
		日本	アジア	その他	
注力領域	セーフティ	難燃剤			
		医療用樹脂			
		医薬品原体			
		粘・接着剤			
		カーナンバープレート用／標識用／広告・看板用 再帰反射シート			
	モビリティ	レーザーマーキングラベル			
		空中ディスプレイ用リフレクター			
		車両用（外装・内装）フィルム 車両用グラフィックステッカー			
		グリーンシート	3Dエンブレム		
		チップ抵抗器用アルミナセラミック基板			

【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

中国・アジア市場での機能樹脂のビジネス展開

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
高機能樹脂	セーフティ モビリティ	アジア



昨年より開始した、光学製品向け粘・接着剤など機能樹脂製品の中国市場での展開に加え、アジア市場でも拡販を目指しています。中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司に営業拠点を置き、マーケティングや顧客対応体制もさらに強化しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、販売計画に遅れが生じています。

【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

新規機能性フィルムと幅広フィルムの生産体制整備と拡販

中計における位置づけ			
戦略分野	注力領域	成長地域	
機能性フィルム	モビリティ	日本	アジア

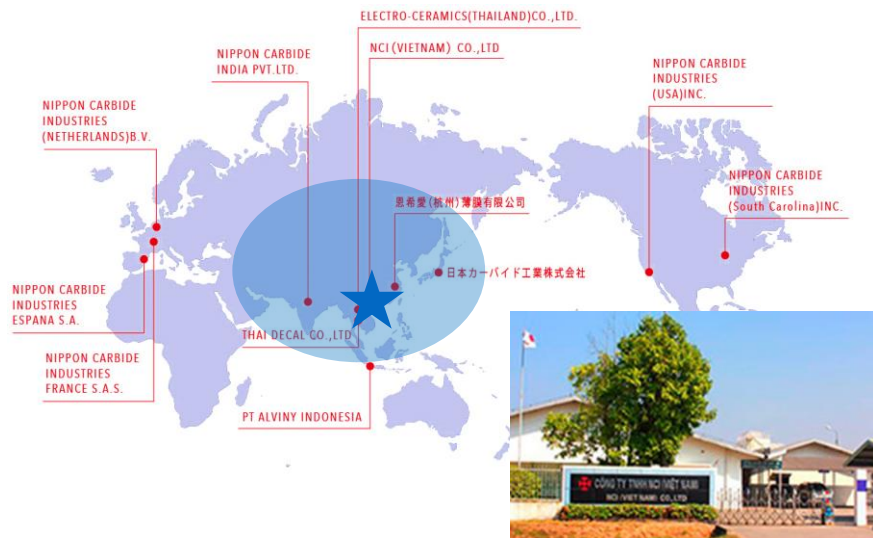


自動車用途（外装・内装・樹脂パーツなど）
新規機能性フィルムや、海外向けラッピング
用途にニーズの高い幅広フィルムについて、
お客様による評価が始まっています。一方、
中国・恩希愛（杭州）薄膜有限公司での生産
体制の整備には、遅れが生じています。

【進捗状況】コア事業（戦略分野）の成長戦略

ステッカー、3Dエンブレムの拡販

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
		日本 アジア



アジア各拠点のハブとして、ベトナム・NCI(VIETNAM) CO.,LTD.に、「技術開発センター」が当初予定通り完成しました。機能性フィルムやステッカー、3Dエンブレムなど、より高度化するお客様のご要望に迅速にお応えすることを目指します。一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生産ラインの増設には遅れが生じています。

空中ディスプレイ技術を活用した非接触パネルが注目

中計における位置づけ		
戦略分野	注力領域	成長地域
機能性フィルム	セーフティ モビリティ	日本

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、空中ディスプレイ用リフレクターを活用した「非接触操作パネル」が注目を集めており、各方面からの問い合わせが増えています。三菱電機(株)様、日立オムロンターミナルソリューションズ(株) 様などが、当社リフレクターを使用した非接触操作パネルのデモ機などを開発しています。また、一部テレビ放送でも“空中に浮かぶ”タッチパネルが「注目のシステム」として、「多方面で導入に向けた動きが進んでいる」と紹介されました。

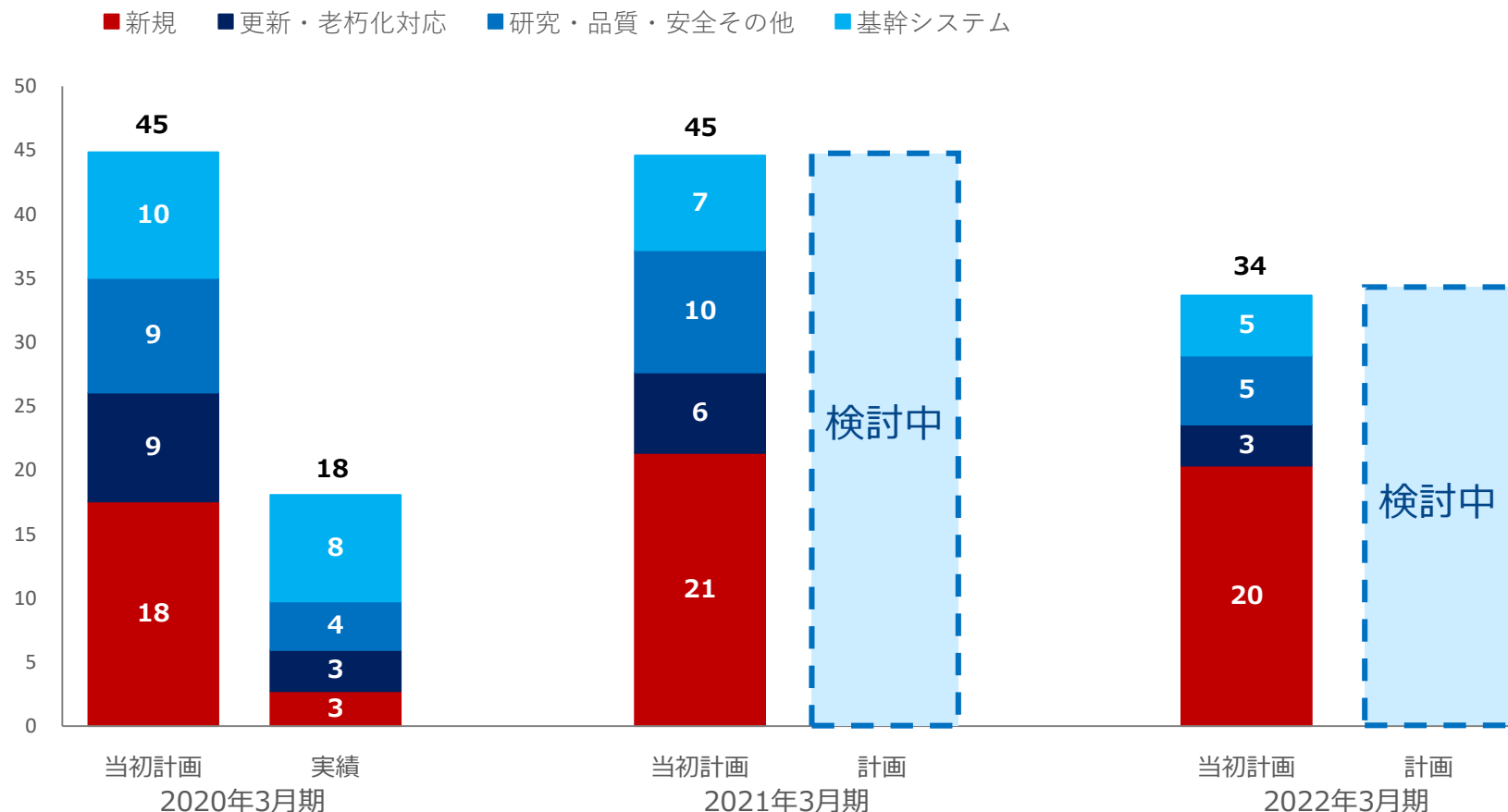


日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社様が展開する、空中でのボタン操作による「タッチレスソリューション」に、日本カーバイド工業の空中ディスプレイ用リフレクターが採用されています
([2020年5月22日ニュースリリース](#))

投資計画

投資計画の進捗は米中貿易摩擦長期化の影響等もあり、遅れている
さらに新型コロナウイルス感染症の影響が長引けば、計画の見直し

(単位：億円)



中期経営計画の考え方

成長

Vision

キラリと光る、価値ある企業グループ

中期経営計画 NCI-2021

成長戦略への本格転換

売上高	連結	570億円
	コア事業	420億円
営業利益	コア事業	45億円
営業利益率	コア事業	10%
ROA	連結	4.0%

2025年のありたい姿

高付加価値ビジネスを成長戦略とし、
持続的成長可能な化学系企業グループ

売上高	コア事業	500億円
営業利益	コア事業	60億円
営業利益率	コア事業	12%
ROA	連結	5.0%

2019年度
(2020年3月期)

2021年度
(2022年3月期)

2025年度
(2026年3月期)

中期経営計画 スケジュールの再検討

- ✓ 米中貿易摩擦の長期化の影響
- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大の影響による、市況の大きな変化



「2025年のありたい姿」の目標およびそれに向けた大きな戦略は維持したい

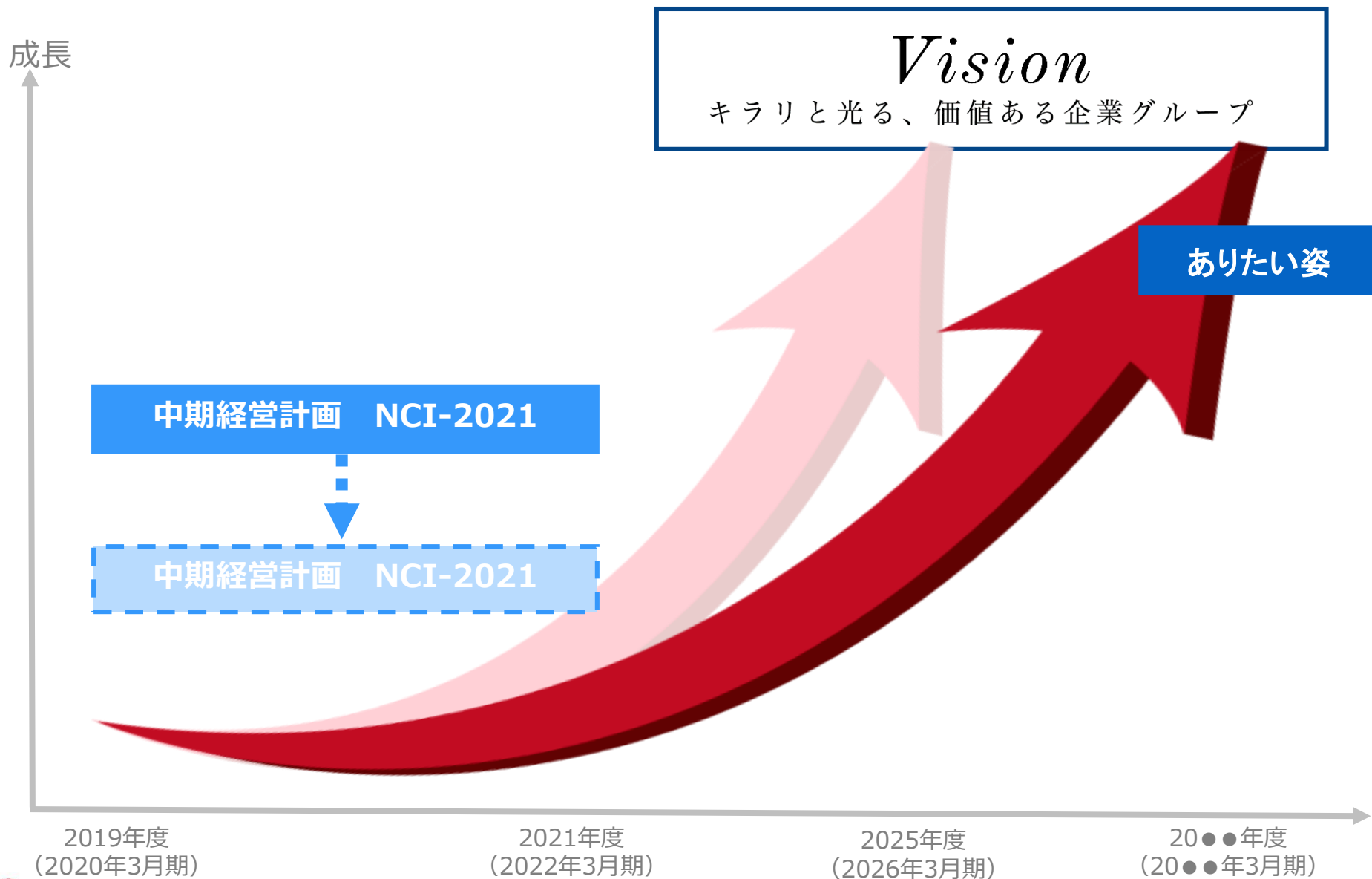


「NCI-2021」を2022年3月期に達成するのは厳しい
(新型コロナウイルス感染症の終息時期や市場の動向を見据えて再検討)



「ありたい姿」の実現の時期と戦術についても再検討

中期経営計画 スケジュールの再検討



アナリスト／機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えてものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。